

# 砕・転圧盛土工法のフィルダムへの適用性検討のための現場実証試験

Site test to examine the applicability a new method to repair damaged embankments using cement-mixed muddy soil

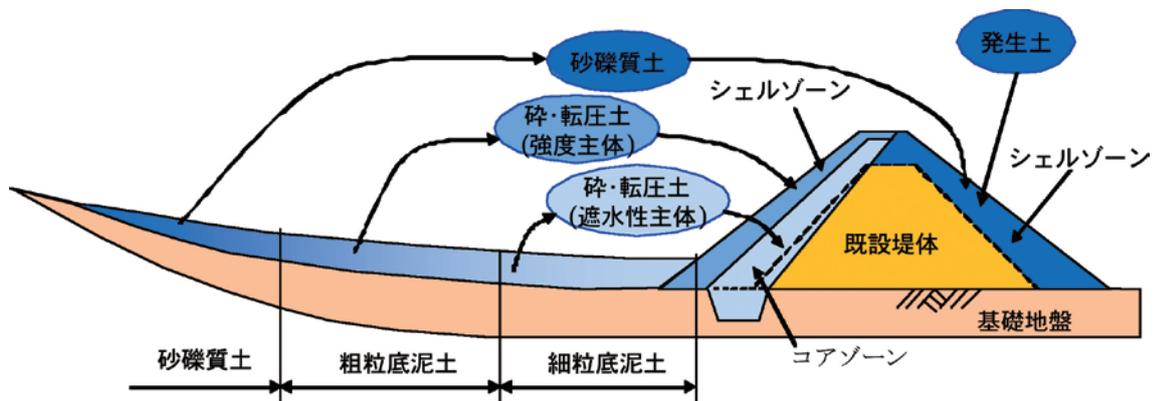
北島 明 福島 伸二\*<sup>1</sup>

Akira KITAJIMA, Shinji FUKUSHIMA

● 環境

● 土木

● 建築



## 目的

筆者らはこれまでに砕・転圧盛土工法をフィルダムの堤体改修に適用するべく、室内試験により底泥土の固化処理強度に及ぼす含水比と粒度の影響を調べ、これらの影響を考慮した強度管理法を提案してきた。本稿では実際の貯水池内に堆積していた粒度と含水比の異なる底泥土を用いて実施工レベルでの現場実証試験を実施し、提案した強度管理法により固化処理土の強度が実施工でも十分に制御できることを証明し、砕・転圧盛土工法がフィルダム堤体改修工法として適用できることを示した。

## 結論

実施した現場試験により、提案した「 $w$ と $F_c$ の影響を考慮した固化処理底泥土の強度管理法」が、 $w$ や $F_c$ が広い範囲で変化する底泥土であっても目標とする強度範囲の初期固化土あるいは砕・転圧土に固化処理できることが確認できた。しかしながら、 $F_c$ が粗粒分を多く含み室内配合試験の基準値 $F_{c0}$ との差が大きくなる底泥土ほど、固化強度に及ぼす $w$ と $F_c$ の影響を近似した指数関数式がこれらの影響を完全に考慮しきれない傾向を示すことに留意しなければならないことがわかった。

\*1 本社 土木本部